

毎年、京都中央信用金庫主催で地元企業や大学、行政等の研究機関による商談会が開催され、本年度で31回目となる。栄養クリニックは開設前から参加しており本年度で13回目となる。来場者数は約8千人を想定しており、今年は304ブース（大学8校）が参加した。2日間のイベントに指導教員・指導員、LSが各々1名と食物栄養学科学生アルバイトの院生2名、4回生1名が参加し、管理栄養士の資質向上に役立つ学生教育の場となっている。

- 日時**：令和元年10月16日（水）10：00～17：00、
17日（木）10：00～16：00
- 場所**：京都府総合見本市会館（パルスプラザ）
- 対象**：商談会参加来場者および一般市民
- 内容**：握力、ヘモグロビン（推定値）、骨密度の測定および栄養相談、食品摂取の多様性評価票調査
- 配布資料**：栄養クリニック作成冊子『骨を元気にするレシピ集』『貧血予防ガイド&レシピ集』『栄養クリニックの利用ガイド』

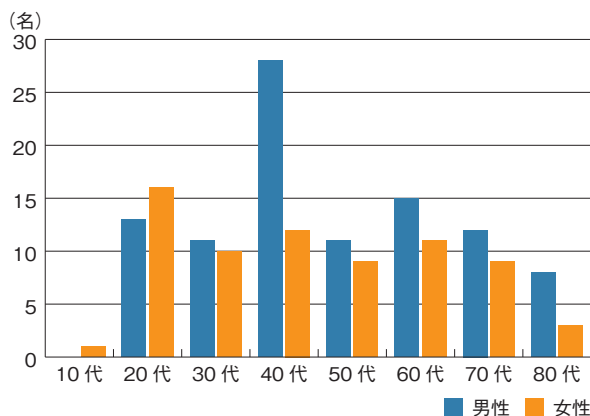
栄養クリニックの開設目的や活動事例の一部をパネルで紹介し、商談訪問者には、栄養クリニックの実態説明をして意見交換を行い、ブース利用者には健康増進や生活習慣病予防の積極的な啓発活動の一環として、上記3項目の測定と食品摂取に関するアンケート調査を実施し、各自の健康への関心を促した。希望者には、各種測定値の評価説明や質問に対し、健康管理に有益な食事と運動についての情報を提示するなど個々の栄養相談に応じた。学生は、受付、測定の内容説明、測定実施と簡単な結果説明を担当した。

【成果】 利用者は169名で下図に示す通り20～80歳代と幅広く、男性58%、女性42%であった。多くの方は、学生の結果説明で満足され、栄養相談を受けた方は20数名で、その半数が毎年來られるリピーターであった。栄養相談の内容は、殆どが骨粗鬆症予防や改善のための具体的な食事であった。栄養クリニックの冊子を使用し、各自の食事からのカルシウム摂取量を予測し、骨量改善に不足しているカルシウムの具体的な補い方や骨形成に役立つ運動についてもアドバイスした。骨粗鬆症は生活習慣病の一つであるにもかかわらず、予防や早期発見に対する一般認識が低く、初めての測定の方も多く、若年者でもかなりの骨量低下の方がおられた。骨粗鬆症の疑いがある方には、受診勧奨と早期治療の重要性を啓発することができた。

利用者の方から「自分の身体や栄養状態を知ることが

でき、具体的な食事の改善点が明確になり、来た甲斐があった」などの感想をいただいた。主催者側からも「毎年、栄養クリニックの人気は高い」との評価を頂き、栄養クリニックを紹介するよい機会であった。

学生達からは、栄養相談の知識・技術は大学の授業で学ぶだけでなく、その場の状況に応じて臨機応変に対応する能力を身につける体験ができ、期待以上の収穫であったとの声が聞かれた。



●**学生の感想**：始めは緊張したが、対応をしている内に緊張感がとれスムーズに動けた。結果説明は、相手に応じて分かりやすく説明することの大切さを実感でき、よい体験ができた。長時間でしたが終わってみると楽しかった。栄養相談はわかりやすい言葉で、さまざまな質問に答えられており、幅広い知識の必要性を痛感した。休憩時間を利用した会場見学で京都の企業を知ることができてよかった。（木戸詔子）

